

(第一表)十萬突破運動の成績 (昭和七年八月現在)

中央特別委員會 委員長 松岡駒吉 企劃部長 齋藤健一
委員(地方特別委員長兼任)

地方委員會	委員長	委員數	獲得組合員數	新組織工場數	總從業數	産業
東京	原 虎 一	118	3,226	25	7,500	紡、金、雜、印、硝
神奈川	土 井 直 作	219	—	—	—	—
千葉	堀 越 梅 男	10	80	4	400	紡、醜、雜
群馬	堀 川 庄 次 郎	12	85	4	750	紡、雜
埼玉	井 堀 繁 雄	15	—	—	—	—
静岡	山 田 重 太 郎	8	73	5	1,550	紡、雜
東北	小 松 宗 治	32	29	5	450	材
愛知	小 泉 七 造	41	650	12	7,200	金、紡、雜、支
京 茲	國 島 泰 次 郎	27	175	14	5,500	紡、金、雜
大阪	金 正 米 吉	91	2,416	17	8,200	紡、金、雜
兵庫	金 子 巽	69	550	10	15,000	紡、金、雜、材
中國	金 光 平	48	227	2	700	金、雜
九州	久 保 時 造	31	1,064	5	5,600	炭、支、金
合計		777	8,578	103	52,850	6 業 産

〔附 考 以上の外組合委員を指命せる地方委員会あり〕

十萬突破運動の成績

中央特別委員會の活動

我同盟加盟組合は、昭和七年八月末現在に於て七二組合、四七、九八六名である。これ等の組合は關東、關西の二同盟會、東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫、中國、九州の八聯合會を組織して居る。前年度に比較すれば、九組合三、七六七名の増加である。

我同盟は前年度大會に於て、計畫的組織運動を行ふため、十萬突破運動を開始した。その成績は第一表の如くである。即ち、十五名の委員に依つて中央特別委員會が構成され、東京、神奈川、群馬、千葉、静岡、愛知、東北、京茲、大阪、兵庫、中國、九州の十三地方に、地方特別委員會を組織し、七百七十七名の委員を任命した。中央特別委員會は、産業別的に、全國工場鑛山の調査表を作製して各組合に發送し、成績加入ポスター、各種の報告カード、知人カードを印刷し、各地方特別委員會に配布した。各委員に對しては、オルグのマーク及選任状を交布し、宣傳に資する爲に、日本労働總同盟の活動「及十萬突破運動ポスター」を發行した。以上の外、箇々の産業及工場、會社等に關する調査に就いても、その申出に從つて調査報告をした。

地方特別委員會は、直接該地方の工場調査を行ひ、印刷物配布、講演會、戸別訪問、事件取扱ひを通じて活動したる結果、昭和七年八月末に於て八百五十七名を新に獲得したのである。然るに、社會民衆黨分裂の影響を受け、選友同志會の脱退あり、その他中央合同労働組合の支部を除名したる爲、約三、〇〇〇名の組合員を失ひ、不況の結果工場閉鎖等による失業者も相當増加したる結果、差引き三、七六七名の増加と見たるに過ぎなかつた。

社會大衆黨は反共產主義、反ファシズム、反資本主義に立脚するものであつて、我同盟の年來の主張實現したものである。